

## 令和3年度 第1回茅ヶ崎市総合教育会議 会議録

議題	1 連絡事項 令和3年度の総合教育会議について 2 議題 茅ヶ崎市のGIGAスクール構想について
日時	令和3年7月15日(木) 午後3時00分～午後3時38分
場所	市役所本庁舎4階 会議室2
出席者氏名	総合教育会議委員 佐藤市長 竹内教育長 赤坂教育長職務代理者 伊藤委員 大森委員 中馬委員  (事務局) 機構順 添田企画部長 坂田企画部企画経営課長 三浦企画部行政改革推進室長 伊東企画部情報推進課長 前田教育総務部長 島津教育総務部教育総務課長 戸井田教育総務部教育総務課課長補佐 白鳥教育推進部長 青柳教育指導担当部長 力石教育推進部学校教育指導課長 今井教育推進部学校教育指導課担当主査
会議資料	・次第 ・資料1 令和3年度の茅ヶ崎市総合教育会議について ・資料2 茅ヶ崎市のGIGAスクール構想について
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者	1人

○佐藤市長 改めまして、こんにちは。それでは、令和3年度第1回茅ヶ崎市総合教育会議を開催いたします。

次第に沿いまして、連絡事項、令和3年度の総合教育会議について事務局よりご説明願います。

○教育総務課長 それでは、令和3年度総合教育会議についてご説明を申し上げます。

資料1をご覧ください。本年度の総合教育会議の日程及び内容の一覧でございます。

第1回につきましては、本日、この後、GIGAスクール構想に関する本市の状況について、実際の授業で使用しているアプリケーションを実演するとともに、ICTを活用し

た事務の効率化等についてご協議をいただきます。

第2回目は10月21日で、内容といたしましては、本日の会議を踏まえつつ、円蔵中学校の授業の様子を視察し、授業がどのように変化したか等についてご協議をいただきたいと考えております。

3回目につきましては、1月20日を予定しています。来年度オープンを予定しております（仮称）茅ヶ崎市歴史文化交流館につきまして、周辺の環境を生かした活動の在り方や学校教育との連携方策等についてご協議をいただきたいと考えております。

なお、総合教育会議ではございませんが、11月18日に教育委員の皆様には（仮称）茅ヶ崎市歴史文化交流館の視察を予定しております。

事務局からのご説明は以上でございます。

○佐藤市長 よろしいですか。連絡事項ということでご承知おきください。

続きまして、議題に入ります。茅ヶ崎市のG I G Aスクール構想について事務局より説明をお願いします。

○学校教育指導課担当主査 それでは、学校教育指導課の今井でございます。どうぞよろしく願いいたします。

今日は、タブレットを使いましてご説明をさせていただきたいと思います。ホームボタンを押していただいて、画面左にロイロノートという画面がありますが、目の前に表示している画面になっているか、確認してください。一度開いていただいて、よろしいでしょうか。

（委員及び事務局一同 タブレットを確認）

それでは、説明させていただきます。昨年度、国がG I G Aスクール構想を前倒ししたことによって、本市に児童・生徒分のタブレット端末1万9427台が各学校に配備されました。本年度に入りまして、活用を今始めている状況ですが、今の学校の状況と、本市のG I G Aスクール構想の概要説明と、どのように使っているかについて、デモンストレーションを行っていきます。よろしく願いいたします。

本日、使っているタブレットですが、これはロイロ社からお借りしています。学校に配備されているiPadはこのようなケースとキーボードがついている形になっています。なぜ、キーボードをつけなければいけなかったかというのは後ほど説明しますが、低学年用はキーボードなしで、高学年用と中学生はキーボードがついている形で、文字入力というものをしっかり身につけさせるという目的があります。

GIGAスクール構想の実現における学校での学びというところで国から3点上げられています。1つ目、一斉学習。ロイロノートというソフトで、実際にこうやって画面配信したりして、実際学校でもこのような形で行われています。一斉学習ですが、今、私が操作しているように、画面を配信して、みんなで資料を見る。これまでは、黒板に拡大した資料を貼って、それをみんなで見ていましたが、今は手元にあるタブレットで資料を見ながら自分の学びを深めることができます。これによって児童・生徒の興味・関心を高めることができると考えられています。

続きまして、個別学習、1人1台端末を用いたことで、これまでならパソコンルームのパソコンで情報収集をしていましたが、個別に授業の中で調べ学習を行ったり、総合的な学習において調査活動を行ったり、アンケートを取ったりといったことも自分の手元にある端末で使うことができます。

次に協働学習になります。ロイロノートを使っていくと、発表や話し合いというものもより楽に子どもたちの考えを共有し合うことができます。こちらの赤で囲ってあるところは、また後ほどデモンストレーションで示しますが、このように配信したことで、私がこちらで書いたものも反映されます。したがって、「ここはね」とかそういう形で示しやすくなります。資料とかを「皆さんここを見てください」というときに画面を見て矢印がついていきますので、子供たちもより分かりやすくなっているところがあります。

続きまして、国が示す授業での活用方法の例です。いろんな活用例はありますが、主なものと国語と理科と外国語を上げさせていただきました。先ほどキーボードつきでないとの補助が下りないというところですが、文章作成ソフトで文章を書くにあたり、文章の作成やタイピングの技能がある程度求められてくるようになってきています。学力・学習状況調査も、今後、タブレット端末を使って行く検討が国で始まっていると聞いています。CBTと呼ばれて、コンピューター・ベースド・テストといつて、パソコン上で学力状況調査を行うのではないかと国も示しています。

例えば、理科で観察の実験についても、これまでだったら実験を見ていたものを、例えば動画で、このようにタブレットを置いて撮影したり、後で見返したりといったこともできますので、より深い活用ができると考えられます。

続いて、学年別の活用例ですが、国語の授業では、低学年はキーボードやタイピングがまだできませんので、自分の音読を録って練習したり、体育では、自分の技や試技を撮って見返してみたり、そういった使い方をしていきます。実際に使っている中で、タブレット

があつてよかったという低学年の声としては、生活科でミニトマトの観察を行ったりするのですが、観測の過程を写真で撮っておける。これまでだと絵でその様子を描いていたのですが、やはり写真を見て比べることができるというところが、すごく効果的だという声も聞いています。

中学年になりますと、ローマ字のタイピングの練習が始まってきますので、タイピングを使って、ウェブ検索や情報の収集を行うことができます。また、総合的な学習の時間において、プレゼンテーションツールを使って発表を行うなどの使い方ができるようになります。

高学年になると、さらに高度な使い方になります。プログラミング学習も行っており、プログラミング学習用のソフトも使っております。外国語の授業では、今後はホノルルとか、遠隔教育での活用も考えられると思います。

中学校のタブレットの使用率は、4月、5月、6月と使用率がだんだん上がっております。中学校は、ほぼ全ての生徒が毎日使うような状況になっていると聞いております。いろんな使い方があるのですが、本市が目指すICTを活用した学習の形としては、あくまでも補助的なツールとして考えています。ICT機器でできることは多くあるのですが、全てICTに頼るのでなく、今までの学習を基盤としながらも、補助的なツールとして使っていくということを大切にしています。したがって、文字入力はもちろん大切ですが、読むこと、書くことというのが非常に大切な力です。課題が与えられて、ここに入力して、提出して、全てをタブレットで終わらせるのではなく、今までのノートに書く、教科書を読むということも大切にしながら、ICTを活用してほしいと各学校に伝えていきます。

最も有効的な活用の方法として、課題の共有、子どもたちの考えの共有が上げられます。使う場面として、このように教師から課題を配信して、配信された課題を子どもたちが考えます。子どもそれぞれが考えことをタブレットに入力すると、子ども達の考えが一斉に共有できます。子どもたちのICTの技能は、まだすごい差があります。したがって、これまでのようにノートに書いて、書いたものを写真に撮って、共有するという使い方を学校ではしております。

では、実際に使ってみたいと思います。今、この画面に配信しました。ロイロノートというのは、カードを送り合ったりして、学習するのですが、参考にこういう課題を作ってみました。「茅ヶ崎市の魅力」を皆さんに入力をしてもらいたいと思います。私からこの

カードを皆さん全員に送ります。送ると、左下からカードが飛び出してきます。

このカードを、1番と2番を表示されているところを2回タップすると、文字入力ができます。1個しかなかったら1個で構いませんので入力をしていただいて、後ほど提出してもらいます。提出するときには、また提出の仕方をお伝えしますので、まず入力をしてもらいたいと思います。では、送ります。

お手元のタブレットに届いたと思います。入力の時間は、大体5分から7分間くらい取りたいと思います。

実際に学校でもタイマーで入力時間を示しながら授業を進めています。このカードには、カメラで撮ったものを取り込むこともできます。

(委員及び事務局一同 カードに入力)

よろしいでしょうか。では、提出の仕方をお伝えします。今、この画面になっていると思いますが、左下に提出という箱があります。今、ご自身で書かれたカードをこうやってタップしながら移動します。その移動したものをそのまま提出ボックスに入れていただくと。

○伊藤委員 提出にドラッグ・アンド・ドロップするのですね。

○学校教育指導課担当主査 はい、そうです。そうすると、こちらには、出していただいたカードがこのように出てきます。皆さんも、総合教育会議という提出ボックスを押していただくと、ほかの人がどんなものを書いたかというのが見えてくるとと思います。

(委員及び事務局一同 カードを提出)

○学校教育指導課担当主査 皆さんの提出したものを見てみましょう。はじめは、ほかの人が提出したものが見えません。何で見えないようにするかというと、子どもたちが何か考えを出したときに、ほかの人の考えが見えてしまい、写したり、この回答を共有することをしないとき方がよいときもあります。今から、回答を共有します。回答を共有すると、ほかの人の考えが見えます。

このような形で、実際に課題に対して子どもたちがのぞみます。その上で、自分の考えを書いたものをみんなで共有していきます。共有は、その考えについて、これまでだったら机間巡視が基本です。もちろん今も机間巡視はするのですが、子どもたちで考え、より深める考え、授業においてよりよい考えを選択して、これはどういうことみたいな形で聞くことができます。

力石課長、すみませんが、お願いいたします。ご自身の考えについてコメントをお願い

いします。

○学校教育指導課長 1番はよくあることだと思いますが、2番は海に近い、海に面しているというところからも、ほかの方の意見にもありますが、美味しいお店がたくさんあります。以上です。

(一同拍手)

○学校教育指導課担当主査 今、力石課長が出された意見というのは、皆さんの画面に出ていますよね。このような形で、発表する人の考えを画面で映す。ただ、気をつけなければいけないのは、画面を見がちになります。そのため、手元のタブレットの画面はあくまで補助で、やはり人を見て、聞く力はつけていくことをしています。

このように、出てきた意見に対して、例えば似た意見とか考えを共有するときとかに、こうやって比較をして比べたり、聞き合ったり、そういった使い方を学校でしています。

ロイロノートですが、今年に関しては無料で提供させていただいております。ただ、次年度以降は費用がかかってきてしまうのですが、非常に有効なアプリケーションで、先生方から、iPadとロイロノートの組み合わせは非常に使いやすく、子どもたちの意見の共有と、先生たちの子供の見取りというところは非常にしやすいということを聞いています。ただ、タブレットに頼りすぎないように指導主事から先生方に伝えていきます。先ほど説明したように、あくまで補助的なツールという形を浸透させていければいいかなと思います。

ほかにもいろんな機能があるのですが、ここで説明を終わります。ありがとうございました。

(一同拍手)

○佐藤市長 それでは、何か質疑はございますでしょうか。

○竹内教育長 今、学校での使い方でご説明をされました。例えば教科によって使う頻度に違いはありますか。

○学校教育指導課担当主査 ロイロノートに関しては様々な授業で使えるのでいいのですが、体育でも使えますし、タブレットを一番使っているなという印象を受けるのは社会科の調べ学習です。

○竹内教育長 続けて質問をいいですか。例えば、先ほど書く大切さというお話をいただきましたけれども、直接ノートとか紙に書く場合もあると思いますが、この画面を対象に書く場合はありますか。

○学校教育指導課担当主査 子供たちにはペンがついていないので、指で書くことができますが、1回やってみましょう。先ほど提示したカードに1回戻っていただいて、またこのカードを開いてもらってよろしいでしょうか。

このカードを開いたら、上に鉛筆マークがあると思います。これを選択してすると、書けるようになると思います。左のペンはフラッシュペンといってすぐに消えてしまうペンです。何かを示したいときとか使うペンで、色を変えることもできます。手書きで行うことはできますが、子どもたちはペンがついていないので、少し書きづらいかなという印象です。教員には、ペンをつけています。

○赤坂委員 消すときはどうするのですか。

○学校教育指導課担当主査 消すときは、消しゴムマークがあります。消しゴムマークを選択していただいて、書いたところをこすっていただくと消えます。ちなみに、長押しすると全消しというのが出てきて、書いてあるものが全て消すことができます。

学校によっては、スタイラスペンという書けるペンがあるんですけども、GIGAスクール構想によって、安価に提供している業者もありますので、学校で購入している学校もあると聞いています。

○赤坂委員 動画を見せることもできますか。

○学校教育指導課担当主査 できます。動画を撮って送ることもできますので、例えばこういう形で動画を撮ります。実際にやってみます。いま、皆さんに送りましたので、今撮ったものが送られてきていると思います。それを再生すると、撮った動画が送られてきます。もちろん写真も送れますので、例えば理科の実験動画をみんなで共有したり、体育の自分の技を撮ったものを送ったり、そういった使い方ができます。

○赤坂委員 道徳で市販されているCDというか、DVDを動画でよく使ったりするのですが、そういったことも可能ですか。

○学校教育指導課担当主査 動画ファイルに変換して使えば使うことは可能です。そのままは使えないので、1回パソコンに取り込んでから使えると思います。

○佐藤市長 部活での使い方は、どうですか。

○学校教育指導課担当主査 部活でも活用しています。使い方としては、スイングのフォームを撮影などをしているところもありますね。

○伊藤委員 幾つか質問があります。最初に、読む、書くというのはやっぱり基礎基本だと思うので、それを大事にするために、小学校の1年、2年とかではキーボードはないで

すよという解釈でしょうか。

○学校教育指導課担当主査 まず、ローマ字の入力は小学校3年生から入ってくるものなので、平仮名入力でのタイピングを学習してもいいのですが、将来的にはローマ字で入力できたほうがいいかなと思います。1年生のうちから平仮名の入力に慣れてしまうと、ずっとそれでタイピングをしてしまうと思うので、推奨してはいません。

○伊藤委員 要するに、基礎基本を大事にする、読む、書くということとはまた別に、ローマ字入力がどうかというところで考えていますということですね。

○学校教育指導課担当主査 そうです。読む、書くは学年全体に言えることですので。

○伊藤委員 あとは、発表するときに、教員のほうが提示したものと児童が提示したものを2つに画面で分け、表示することは可能ですか。

○学校教育指導課担当主査 はい。例えば画面の分割というのは、アップルの機能になると思います。例えばこの形で、右はインターネット、左はロイロノートを開いていますが、このような形で、左側に先生が示した何かの資料を見て、右は子どもたちの考えを開いたりする使い方はできます。ただ、少し画面が小さくなってしまいます。

○伊藤委員 分かりました。あと2つだけ。タブレットを使えるようになると板書計画というのが変わってくるというふうに思うのですが、そういうところは、例えば先生方の研修とかというのはどのぐらいやられていますか。

○学校教育指導課担当主査 年度末に私が各学校に行ってロイロノートの研修とか使い方について研修会を行っています。また、各学校において支援員さんをお呼びし、研修会を行っています。担当者会で各学校のパソコン委員会の担当者をお招きして、実際の授業を見て研修を行っています。

○伊藤委員 極端な話、今までは教員が黒板に全部書いて授業をしていたのが、タブレット上で児童・生徒の皆さんに飛ばして、あるいは板書だと、消してまた書くというのがあっても、タブレットは戻ってごらんとか、見てごらんとかいうのでできるようになるので、全然板書の仕方が変わってくると思います。そういうことも研修しているということですか。

○学校教育指導課担当主査 そうですね。先生たちの中には、板書の時間を結構取られたりするので、最初に子どもたちに示すものをスライド的に作っておいて先に渡しています。先生がお話しします。もちろん書くことも大事ですので、そのバランスは大切にしたいと思っています。



○伊藤委員 最後に、これは日本全国の問題ではなかったか、タブレットを置く、教科書を置く、ノートを置く。ですが、机は昔のままの机で狭いですね。そこはどうか。

○学校教育指導課担当主査 年度末に国から示されたのは机の規格で、新しいものを買うことがあればという話がありました。ただ、教室の大きさは変えられないので、机を大きいものに代えると、教室がより狭くなってしまうという問題があります。したがって、使い方を工夫して、タブレットにキーボードはついていますが、落ちないように置いたりしています。それでもやっぱり落ちる事例は多々発生しています。

○学校教育指導課長 補足でよろしいですか。机については規格が、昔の50人学級の中の規格から、20年ぐらい前に新しい規格になって、5センチぐらい大きくなっています。当然全国的に、ご意見のとおり課題があり、10センチぐらい拡張でき、ストッパーがついているものが製品として出てきています。ただし、1つ2300円するので、2万人分だとかなりの費用がかかります。

ただし、このケースについては、担当者から説明があったように落ちるケースも当然あります。何よりも学校が今の環境の中で十分工夫をしております。先日の計画訪問でも、落とさないように気をつけてねと先生が指示した瞬間に落としちゃう子もいます。でも割れませんでした。今のところ、この3か月活用が進んでいる中で、破損は6台ほどです。

ただそれも、落としての破損ではなく、低学年の場合はストラップをかけて外に行くのですが、同時に水筒もかけており、水筒とタブレットの画面がぶつかって割れたということがあります。そのあたりは、今までの破損の状況も担当者から各学校に随時発信をして注意を促しています。机についても、国も何らかしらの支援等も今後あるかもしれませんが、まずは現状の中で工夫しています。

先ほど皆様から、読む、書くとか、板書の話もありました。板書は板書で、当然1時間が終わった後の流れを子どもたちが確認する上では大事ですので、タブレットの活用を踏まえた板書計画について、力を入れていかなければいけないと思います。また、読む、書くについては、本日のデモンストレーションでは、私たちもローマ字入力をしたのですが、計画訪問において、タブレットの活用が始まった学校を見てみると、これまでのようにワークシートに手で書きます。それを写真で撮ります。これまではワークシートを持って、4人組を組んでみましようといっって、順番に話して、これはいいねと言いながら、協働というか、考えを深めています。これまでどおり書くということを大事にしながらも、書いたものを写真に撮ってすぐ提出することで、35人から40人の意見が一斉にいつでも見

れる状態をつくれるようにしています。

今までは、4人ぐらいの仲間の意見を共有するのに5分、10分かかっていたものが、場合によっては35人、40人のものを2分、3分で必要に応じて共有できてしまう。その分、授業の目的に応じた活動に力を入れられるということは、教育や授業の目的は変わらないのですが、新たな手段が入ったことで授業が本当に大きく変わっています。先生方もよく使っているから、ロイロノートも含めて、茅ヶ崎市の学校教育として、配備したものを有効活用する方法についてはもっと進めていきたいと考えています。

○伊藤委員 すごいですね。主体的、対話的、深い学びの形が変わってくるという、そういうことですね。

○学校教育指導課長 はい。

○伊藤委員 ありがとうございます。

○竹内教育長 質問していいですか。隣の学級と合同の授業という方法は可能ですか。

○学校教育指導課担当主査 可能です。今、ロイロノートで1つのクラスに皆さんをお招きして入っています。そこに、隣のクラスと合同のクラスをつくれば、合同で授業を行うことが可能です。

○竹内教育長 ここから発信してつなぐということですね。例えば、隣の教室にたまたま先生がいらっしゃらないときに、合同の授業をすることもできるということですね。

○学校教育指導課担当主査 そうですね。可能です。

○佐藤市長 タブレットの持ち帰りはできますか。

○学校教育指導課担当主査 今年度につきましては、学校で使って、確実な使い方を学んでいかないといけないと考えています。持ち帰ったときに様々な問題が出てきますので、基本的に持ち帰ることはしていませんが、来年度からの持ち帰りの検討はしています。ただし、不登校児童・生徒さんなど学校になかなか来れない子どもたちに関しては、学校として貸出しを許可して、学校と家庭とをつなぐツールとしての活用はしております。

○佐藤市長 分かりました。授業1日使っていると充電量のかなり減ると思いますが、いかがですか。

○学校教育指導課担当主査 充電量は意外ともっていますので、毎日充電するようなものではないので、2週間に1回かそのぐらいで多分足りています。毎日充電すると、逆に今度はバッテリーが弱くなってきてしまいますので、その点は学校に伝えております。

○伊藤委員 今のお話の中で、学校に来られないお子さんがタブレットで学習する。それ

は指導要録にも評価が反映できると考えてよろしいですか。

○学校教育指導課担当主査 そのようには思っております。オンライン授業としてやったときにはそういうことを認めます。ただし、ずっとオンラインで家庭と学校をつなぐというのはやはり先生方の負担が非常に大きいものになってしまいますので、現在は、例えば朝の時間で活用しています。

○伊藤委員 もう1つよろしいですか。教科書もデジタルになってくる可能性がありますよね。それこそ先ほどの話ではないですが、児童・生徒がタブレットを持ち帰って、また学校に持ってくる。タブレットを持ってくれば全ての教科書が揃うという状況が起こる可能性もありますよね。

○学校教育指導課担当主査 最近、国の実証実験で、本市においても何校かでデジタル教科書のようなものはやっています。しかし、国の方針転換もありまして、デジタル化一辺倒ではなくなっているところもあります。やはり全てがデジタルというところはないのかなと思います。やはり紙のよさ、読むよさというところがあると思いますので、デジタルだと情報を見つけづらい。教科書だったら何ページと言われて、何ページと開くことができるんですが、デジタルですと探すのがなかなか見づらいと思います。使い方次第かなと思います。全てをデジタルで一本化して紙がなくなるということは多分ないと思います。

○伊藤委員 分かりました。

○佐藤市長 他にございますでしょうか。よろしいですか。それでは、これで第1回総合教育会議を終了します。委員の皆様、ありがとうございました。